



第9回 日本構造医学会 大阪学術会議特集

Annual Meeting of Japan Society of Structural Biomedical Science

2004年10月9日 コスモスクエア国際交流センター

台風のなか開催された大阪学術会議

日本構造医学会の第9回大阪学術会議（大会実行委員長・柴田宗孝氏）が、10月9日、コスモスクエア国際交流センター（大阪市住之江区）で開催された。

吉田勸持会長による学会長講演、住岡輝明氏（水前寺診療所所長）による教育講演、そして11題の一般演題が行われたほか、臨床レポート、2題のポスタープレゼンテーションなどが発表された（4頁～参照）。

当日は超大型の台風22号が本州に上陸し、飛行機や新幹線のダイヤが大幅に乱れ、欠便も相

次ぐなか、全国から学会員約240人が参加。学会員の構造医学にける熱意、大きな期待感が伝わってきた。

メイン会場となった講堂は、ステージを中心とした扇型で、席は階段状でどこからでも場内を一望できる広々としたつくりになっていて、今回は演者がリラックスできるようにと、舞台前列の席で座りながら発表するというユニークなものであった。

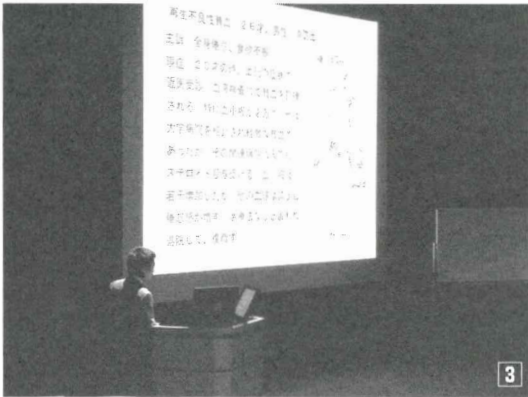
常識にとらわれない幅広い視野で

今回で第9回をむかえる本学術会議だが、医師、歯科医師、柔道整復師、放射線技師らによる一般演題のテーマおよび研究手法は多岐にわたり、既存の医学とは異なる、幅広い視野でとらえる構造医学の可能性をあらためて感じさせる内容となった。なかには自身の療養経験にもとづいた貴重な研究や、実際に患者本人が参加して回答する構造医学会ならではの発表形式もみられた。

また、熊谷光剛氏（歯科医師）による臨床レポート「顔の発育と脳の機能」では、小児の成長発育の臨床において、子供たちの外見（顔）



- 1) 発表を聞き入る吉田勲持会長をはじめとした学会役員
- 2) ステージを中心とした扇形の会場
- 3) 教育講演で血液疾患に関しての症例を報告する住岡輝明氏
- 4) 演者には吉田勲持会長により感謝状が授与された
- 5) コスモスクエア国際交流センターの外観
- 6) 休憩室に掲示された2題のポスター
- 7) 治療器具が展示されたプレゼンスルーム



の変化にともない、精神面・知能面でも興味深い変化が起こっていることがレポートされ、参加者の関心を集めていた。

多くの演者が、日常の臨床のなかで構造医学の奥深さを実感し、このすばらしき統合医学を広く社会に認められるようにしていきたいと訴えていたことも非常に印象的であった。

今回の学術会議では、2階の研修室をプレゼンスルームとして、構造医学関連の機器や治療

器具、健康補助食品、書籍などが展示・紹介された。会場内のメインモニターでは、吉田会長による講演や治療器具を解説したビデオが上映され、実際に頭頸部生理冷却装置を体験できるコーナーなども好評であった。

なお、次回の第10回日本構造医学会東京学術会議は、来年10月22日（土）、東京都墨田区の国際ファッションセンタービルで開催される予定（詳細は28頁参照）。